

中世・近世の西欧詩歌とその思想的背景

— 比較詩学の視点から —

研究代表者 猪俣賢司

1. 研究活動の概要

本プロジェクトは、イタリア・フランス・イギリスに於ける中世・近世の詩学の特徴を、西欧に共通する修辞学思想の下で明らかにすると共に、日本の詩学を含む「比較詩学」(comparative poetics)の視点から俯瞰することを目的とする。それは、ラテン語を前提とした理論の改変と、ローマから西欧周辺地域への拡大という歴史的・地理的問題(「俗語の詩学」(vernacular poetics)の形成)を孕んだ、メディアとしての言語表現(lingua/media)の多様化を明らかにすることでもある。

具体的には、(1)「俗語の詩学」の諸様相、(2)修辞学思想の周辺、(3)俗語(新しい言語メディア)の形成、という観点から研究を進める。

平成16年度は、(1)の観点から、ジョン・ダンに於ける説教壇の修辞学について論考をまとめ(高橋)、イタリア中世詩の霊的世界の読解にも着手した(猪俣)。(2)の観点からは、デカルトの認識論と文学の関係について研究を進め(村上)、(3)の観点からは、中代フランス語の語形成法の研究を開始した(高田)。

尚、参加メンバーの中1名(荻)は、現在、ロンドン大学東洋アジア研究所に於いて、謡曲など日本古典芸能関係の文献を収集中である。

2. 研究活動の成果

(1)

- ・高橋正平「Lancelot Andrewesとジェームズ一世 —The Gowrie Conspiracy 説教と The Gunpowder Plot 説教を中心として」(『人文科学研究』第114輯、平成16年)
- ・高橋正平「Thomas James の Jesuites Downefall におけるジェズイット批判

について」(『言語文化研究』第10号, 平成16年)

- ・高橋正平「ジェームズ一世の「忠誠の誓い」とロバート・パースンズの『カトリック教徒英国人の判断』—ロバート・パースンズのジェームズ一世への反論について—」(『人文科学研究』第116輯, 平成17年)

(2)

- ・村上吉男「シモーヌ・ヴェーユとデカルト〔補Ⅲ④〕～デカルトの独自の用法とその認識論～」(『人文科学研究』第114輯, 平成16年)
- ・村上吉男「シモーヌ・ヴェーユとデカルト〔補Ⅲ⑤〕～デカルトの独自の用法とその認識論～」(『人文科学研究』第115輯, 平成16年)
- ・村上吉男「シモーヌ・ヴェーユとデカルト〔補Ⅲ⑥〕～デカルトの独自の用法とその認識論～」(『言語文化研究』第10号, 平成16年)
- ・村上吉男「デカルト身体論」(『人文科学研究』第116輯, 平成17年)